

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）  
神奈川ユニットセンター運営協議会 議事録

記録：三縄

確認：川上

日時：平成24年 2月10日（金）午後 3時～5時

場所：崎陽軒ヨコハマジャスト1号館8階 会議室3号室（横浜駅東口）

出席者：最終頁に添付

次第：

1. 開会挨拶  
ユニットセンター長 横田 俊平
2. 出席者紹介
3. 来賓挨拶  
環境省環境保健部環境リスク評価室長 戸田 英作 様
4. 議題  
(1) 平成23年度エコチル調査実施報告  
(2) 平成24年度の取り組み  
(3) その他
5. 参加者からのメッセージなど
6. 質疑応答
7. 閉会挨拶  
副ユニットセンター長 平原 史樹

## 詳細

### 1. 横田俊平 ユニットセンター長 挨拶

### 2. 出席者紹介（一覧表参照）

### 3. 来賓挨拶 戸田 英作 環境省環境保健部環境リスク評価室長

戸田室長より、以下のご挨拶があった。

リクルート数が 25,000 人を超えた。環境省は、ポスター掲示や企業サポーターを募るなどの広報、予算の獲得などを行っている。先の東日本大震災をうけ、福島沿岸のリスクを知りたいとの声が高まっており、地域医療と連携し、今後も参加者増に努める。

### 4 (1) . 平成 23 年度エコチル調査実施報告(川上ちひろ)

1. 各ユニットセンターのリクルート状況を報告した。
2. 神奈川ユニットセンターのリクルート状況を報告した（資料 2-2-1）。
3. 神奈川ユニットセンター協力医療機関の説明と調査員配置状況を説明した（資料 2-2-2・3）。
4. 神奈川ユニットセンターの取り組み、エコチル育児相談について報告した（資料 2-2-4）。

エコチル育児相談は、わざわざ病院に行くほどではないような事柄について気軽に質問できる機会となっている。（川上）

開設当初は予約制としていたが、予約数が少なく、伸び悩みがあった。現在では各地区の行政にご協力いただき、育児支援センターにてエコチル育児相談を行っており、来訪者が気軽に利用できる敷居の低い育児相談を行えるようになった。小児科医にとっても率直な意見を聞くことができる貴重な場である。（小澤）

5. 広報活動の取り組みについて報告した。

#### ① HP の活用についての報告をした（資料 2-3-1）。

参加者への情報提供について通信費削減のためにホームページの有効活用をしたい。そこで、エコチル調査参加者で会議にご出席いただいた方々へ HP の閲覧状況についての質問を行った。

参加者の意見：

- 育児で多忙のため、見る時間がない。
- エコチル育児相談に電話する時間も、相談室に行く時間もない。
- 参加者が利用するホームページが、オープンなのかクローズなのか分かりにくい。また、利用者がいないと参加しにくい。メールマガジン登録についても、登録するとどんな情報が送られてくるのかわからないため、登録しなかった。調査協力の同意時に、メールマガジン登録の可否「はい」「いいえ」を問うチェックがあれば、「はい」にするかもしれない
- まだ妊娠中なので、掲載する子どもの写真もないため、利用していない。
- エコチルに参加したのは 3 人目の子ども（現在妊娠中）。相談は、かかりつけ医に行っている。

それぞれの参加者からの回答を得て、参加者に対して、平原より以下のコメントがあった。

どんな情報がホームページに掲載されていたら有益と思うか、こんな情報がほしい、こんな情報が掲載されていたらメリットがあると思う、参加者の皆さんの考えを教えてください。

② タウンニュースへの記事掲載、駅広告、エコチル通信について（資料 2-3-2・3・4・5・6・7・8）。

以下のような意見や質問があった。

● エコチルで放射能に関するフォローはできないか。（医師会・吉田）

A. 東日本大震災による放射能汚染は、人体に影響が出るレベルではないとされており、疫学的に仮説を立てて検証ようにも結果が出ないと思われるため、難しいだろう。しかし、結果が出ないとしても、調査対象を広げて解析を進める方向である。なお、福島県では放射能について易しく解説したものを配布したりしている。（環境省・戸田）

● ほかのユニットで、エコチル通信のような情報媒体は作成しているのか。（小田原市立病院・松田）

A. エコチル通信のような情報誌を作っているユニットはたくさんある。（環境省・戸田）

● ほかにユニット作成のものと比較するとどのような状況か。（小田原市立病院・松田）

A. それぞれ似たり寄ったりである。栄養相談の日程を記載しているもの、協力医療機関の医師からの寄稿を記載しているものなど。（川上）

6. お祝いグッズについて報告した（資料 2-3-9）

リクルート時、同意時（質問票お持ち帰り時）、出産時のお礼やお祝いについては、税金の無駄使いのようにも感じるので、わざわざ神奈川 UC のグッズを作る必要があるのかとの参加者からの疑問の声があった。また、今後の誕生祝いについても必要かを再度検討すべきとの意見があった。

#### 4 (2) . 平成 24 年度の取り組み(川上ちひろ)

金沢区には分娩施設はたくさんあるものの、それぞれでの出産件数が少ないため、協力医療機関を増やしつつ、リクルートしていくしかない。住所地が参加要件となっているため、リクルートするには条件的に厳しくなっている。

#### 4 (3) . その他

● 参加者への質問

Q. 出産祝いとして肌着をお贈りしているが、ノベルティについて何かご意見をいただけますか？（川上）

3 人目の出産ではあったが、新品をいただいたので嬉しかった。使用しました。（参加者）

3 人目の出産なので、使わなかった。親戚への贈答用として使う予定。（参加者）

これからの出産なので、今のところエコバッグとクリアホルダーをいただいた。質問紙の持ち帰りには便利だが、予算は他の使い道があるのでは。（参加者）

3 人目の出産なので、新品を購入していなかったのが嬉しいと思う。エコバッグとクリアホルダーについては、あれば利用するものではあるが、予算は他の使い道があるのでは。（参加者）

たとえば、謝礼のクオカードにエコチルのロゴをデザインすることで宣伝になると思われる。(参加者)

Q. 1歳の誕生日祝いに、またそれ以降も一年毎、誕生日にプレゼントを贈ることを検討しているが、何かご意見をいただけますか？

毎年誕生日プレゼントを貰うのはプレッシャーに感じる。(参加者)

「税金を使ってこれを作ったのか」と思う人もいるだろう。(参加者)

ボリュームのある質問紙へご回答いただいたお礼として、ノベルティをご用意しています。(小澤)

集まったデータの状況を知ることが有益なのでは？(平原)

データを見ることが出来るのなら、熱心に見ると思う。(参加者)

これからデータを集計し、反映していくことになる(川上)

データのアイデアがあったらご相談ください(環境省・戸田)

小児科医の視点から、育児への不安、どんな悩みがあるのかを知りたいと思う。エコチル育児相談での質問内容や意見を集約し、エコチル通信やホームページに載せて公表することは、参加者のみなさんにとって役立つのではないだろうか？(横田)

質問紙に、喫煙や飲酒など、生活のマイナス面についての質問事項が多いように感じる。(参加者)

自分の子どもの今後の状況が知りたくてエコチル調査に参加した。(参加者)

質問紙において、「なぜこの質問が設定されているのか」を説明することが、参加者にとっての有益な情報になるのではないだろうか。「この質問事項は、薬品や喫煙、飲酒がもたらす影響を調べるために設定している」など。(平原)

Q. データ集計結果が明示されるのはいつ頃？(小田原市立・平吹)

A. 分析結果は、リクルートが終わる平成25年度末まで出ない。(環境省・戸田)

出生体重や発育曲線など、今使っているデータは3000人ぐらいから算出したデータである。現在のエコチル参加者のデータでも、今の状況を知ることが出来る何かはあるはず。(横田)

## 5. 参加者からのメッセージなど

Q. たくさんの方が参加して、調査対象、非対象にかかわらず、もっと広まるといいと思う。駅の広告より、母子手帳を貰うときにパンフレットが入っているとわかり易いのでは。母子手帳と一緒に貰ったもので自分の記憶にあるのは、マタニティマーク、行政からの冊子、出生時の報告に関する書類。(参加者)

A. 母子手帳にパンフレット、入れています。母子手帳交付時に貰うものが多くて、埋もれてしまっているのかもしれない。(川上)

Q. 駅広告より、妊婦さんがよく見る雑誌媒体への広告はどうだろうか？「たまごクラブ」「ひよこクラブ

ブ」はよく読まれている。(参加者)

A. 以前に掲載したことがあります。(環境省・戸田)

神奈川ユニットセンターとしては、タウンニュースのような地域情報紙、行政が発行する広報（ただしこれは同じものを連続して掲載してもらえないため、年に一度の掲載となる）、大和市では妊婦さんに配るものに載せている。(川上)

Q. 参加者を増やすための取り組みとして、たとえば紹介制にするのはどうだろうか？紹介すると謝礼の金券が貰えるなど。(参加者)

A. 倫理的な問題があるように思われる。(環境省・戸田)

口コミの効果に期待したい。

調査対象地域外の方は、エコチルのことを全く知らない。区や市で住所を限定していることが、参加者を増やす妨げになっているのではないだろうか。妊娠すると、まず最初に近所のクリニックへ行くことが多く、また出産は別の施設で行うことも多い。PRの対象を妊婦のみとせず、妊娠前の人にも広く知れ渡るほどに知名度が高まることを期待したい。(参加者)

Q. エコチル調査が13年間も続くことへの抵抗はありませんか？(小田原市立・平吹)

A. 途中で辞退したくなった場合にはそれが可能であることについてリクルート時に説明を受けている。情報のフィードバックがあれば、モチベーションの維持につながると思われる。(参加者)

Q. 子どもへの説明は、いつ、どんなタイミングで行ったらいいのか？親に任されているのだろうか？(参加者)

A. 然るべき時期に子どもの同意を得る必要が生じるが、現在、未定である。

エコチル調査の現状は、リクルートで精いっぱいであることをご理解いただきたい。ちなみに、大人への説明「インフォームド・コンセント」があるように、子どもに言葉を平易にして説明する「インフォームド・アセント」という仕組みがあり、だいたい、4～5歳ぐらいで行われている。(横田)

## 7. 事務連絡 (津田)

タウンニュース社の取材が来ており差支えなければご意見を頂きたい旨を参加者に伝えた。

## 8. 平原史樹 副ユニットセンター長 閉会の挨拶

以上

## 出席者一覧

NO	所属	職名	氏名
1	環境省環境保健部環境リスク評価室	室長	戸田 英作
2	神奈川県保健福祉局保健医療部健康増進課	副課長	勝又 瑞香
3	神奈川県小田原保健福祉事務所	所長	長谷川 嘉春
4	神奈川県大和保健福祉事務所	副技官	黒川 理恵子
5	横浜市保健所子供青少年局	部長	辻本 愛子
6	横浜市金沢区福祉保健センター子ども支援課	課長	青木 かの子
7	小田原市福祉健康部健康づくり課母子保健係	係長	林 万里
8	大和市こども総務課	課長	山崎 晋平
9	横浜南共済病院 産婦人科	部長	飛鳥井 邦雄
10	横浜南共済病院 産婦人科	医長	長瀬 寛美
11	横浜南共済病院 事務部	部長	松岡 博
12	大和市立病院 産婦人科	部長	石川 雅彦
13	大和市立病院 小児科	上級医長	友野 順章
14	大和市立病院 事務局	局長	池田 直人
15	小田原市立病院 産婦人科	部長	平吹 知雄
16	小田原市立病院 小児科	部長	松田 基
17	小田原市立病院 医事課	医事担当	大澤 亜矢子
18	神奈川県医師会	理事	吉田 篤正
19	金沢地区参加者		鈴木 美加子
20	金沢地区参加者		西村 しおり
21	金沢地区参加者		宮沢 さおり
22	大和地区参加者		オノヘレ浩子
23	大和地区参加者		手島美恵
24	神奈川ユニットセンター	センター長	横田 俊平
25	神奈川ユニットセンター	副ユニットセンター長	平原 史樹
26	神奈川ユニットセンター	特任講師	川上 ちひろ
27	神奈川ユニットセンター	特任助教	津田 紫緒
28	神奈川ユニットセンター	特任助手	小澤 礼美
29	神奈川ユニットセンター	エコチル調査員	藤田 厚子
30	神奈川ユニットセンター 事務局	事務員	三縄 さほり